

科目名 (Eng)		産業経済史 (History of Industry and Economics)								
担当教員		川崎 俊郎								
対象学年等		学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目
		一般科目コミ科	5	前期	必修	1	30	一般	B	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：1). JABEE基準I (1)との対応：(a). (b).									
授業の概要と方針		明治以降の日本について産業・技術・経済の分野から概観する。								
到達目標		①資本主義が日本に与えた影響を理解する。 ②近代以降の日本における技術受容と技術開発の概要を理解する。 ③経済統計を図表化して授業の内容を自ら説明できるようにする。								
授業計画										
	週	授業項目	理解すべき内容				事前学習			
前期	1	前近代化の日本	近代経済成長、18世紀の日本と欧米				①配布プリントの次回分を読んでおく。 ②授業内容のまとめをやっておく。 試験の見直しをしておく。			
	2	明治維新と殖産興業	殖産興業政策とその具体例							
	3	産業化の時代 1	日本の産業革命、機械化、工場化							
	4	産業化の時代 2	技術移転、先進国と後進国、開発者利益、後発者の優位性							
	5	資料演習 1	統計の図表化、名目値と実質値							
	6	二重構造	第一次世界大戦が与えた影響 重化学工業化と二重構造							
	7	世界恐慌	金本位制度の崩壊、近隣貧窮化政策							
	8	第二次世界大戦	統制経済、大東亜共栄圏の経済、技術戦としての第二次世界大戦							
	9	戦後復興	戦後改革、GATT－IMF体制と日本							
	10	資料演習 2	階級区分図の作成と読み取り							
	11	高度経済成長 1	高度経済成長の特色、所得倍增計画							
	12	高度経済成長 2	高度経済成長の影響、石油危機とドルショック							
	13	経済統計から見た日本の近代化 1	総合演習							
	14	経済統計から見た日本の近代化 2	総合演習							
	15	近代経済成長後の日本	授業のまとめ							
試験について		中間試験は実施しない。期末試験は試験期間中に50分で実施する。ただし、再試験の受験は、定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。								
評価方法		定期試験60%、課題を40%として評価する。								
教科書		授業時に配布するプリントを教科書の代わりとする。								
参考書		伊藤純郎ほか (2010) 「高等学校 日本史B」、清水書院、梅村又次ほか編「日本経済史」 (全8巻)、岩波書店								
関連科目		経済学概論、法学概論、技術者倫理								
履修上の注意		授業は配布プリントを中心にすすめるので必ずファイルする。課題・レポートは期限や様式を守る。								